

作屋

さくや



窪川

川・根元原から松葉川へと向かう窪川船戸線（ふなと）を走り、七里地区内にある越行バス停のあるところを西に折れるとすぐに松葉川郵便局があり、その先の松葉川橋を渡ったところからが作屋地区である。橋を渡って左に行き、西ノ川橋の手前を右に入ると西ノ川に沿って集落があり、かたや松葉川橋を渡って右に行くと、すぐに下作屋、しばらく行くと上作屋とつづき、その先は米奥である。



旧松葉川中学校

出で、わざわざ四万十川の近くまで行ったという。上作屋の四万十川近くに東洋精密機械という会社があるが、ここは旧松葉川中学校である。正門の表示が

西ノ川の谷筋では、昭和30年代から40年代にかけて行われた発掘調査で、銅矛や弥生式土器が見つかった。西ノ川遺跡という。

下作屋には小さな天満宮がある。下作屋集落の氏神様であるが、何と菅原道真ゆかりの太宰府天満宮からの遷宮であるということだ。天満宮といえば梅の木であるが、なるほどここにも梅の木がある。鳥居近くにあるこの梅は、60年ほど前に、下作屋の人が太宰府から梅の実を持ち帰ってまいったものらしい。土佐の国の四万十川沿いの辺境の地にひっそりと存在する、いわば「飛び梅の飛び梅」である。かの道真公も驚かしているかもしれない。

さて、下作屋と上作屋の境に小さな分かれ道がある。そのまままっすぐ行けば上作屋。左前方に向かって緩やかに登っていく道を入っていくと、上作屋の中の「平田」という地区がある。作屋地区の中で、この平田の集落は北・西・南の三方を山に囲まれており、めったに強風が吹かないのだそうだ。台風が来ても、雨戸を閉める家が無いくらいで、平田集落の方の

お話によると、子ども頃の頃は、風が吹かぬ平田を



西ノ川遺跡の碑

お話によると、子ども頃の頃は、風が吹かぬ平田を



太宰府から遷宮された下作屋の天満宮

町のうごき	(9月30日)		前月比	出生 死亡 転入 転出			
	男	人口		男	女	計	計
	8,888	8,888	-18	1	16	10	13
	10,002	10,002	-9	5	11	12	15
	18,890	18,890	-27	6	27	22	28
	8,780	8,780	-10	(9月中の届出)			

四万十川の 水質状況

	適正值(mg/l)	10月4日
リン酸	≤ 5.0	測定値以下
硝酸	≤ 0.5	0.630
アンモニウム	≤ 5.0	測定値以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.250
化学的酸素消費量	≤ 10.0	測定値以上

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)